

## 千葉市へたの台貝塚平成8年度調査の報告

小林 崑

### 1 へたの台貝塚の調査歴と概要

へたの台貝塚は、現在の千葉市内を流れる都川の河口付近より東南に向って開析される、仁戸名支谷中流部の標高約25mを測る台地上に位置する遺跡である。本遺跡の周辺には、国指定史跡の月ノ木貝塚をはじめ、多数の遺跡が存在している（第1図）。

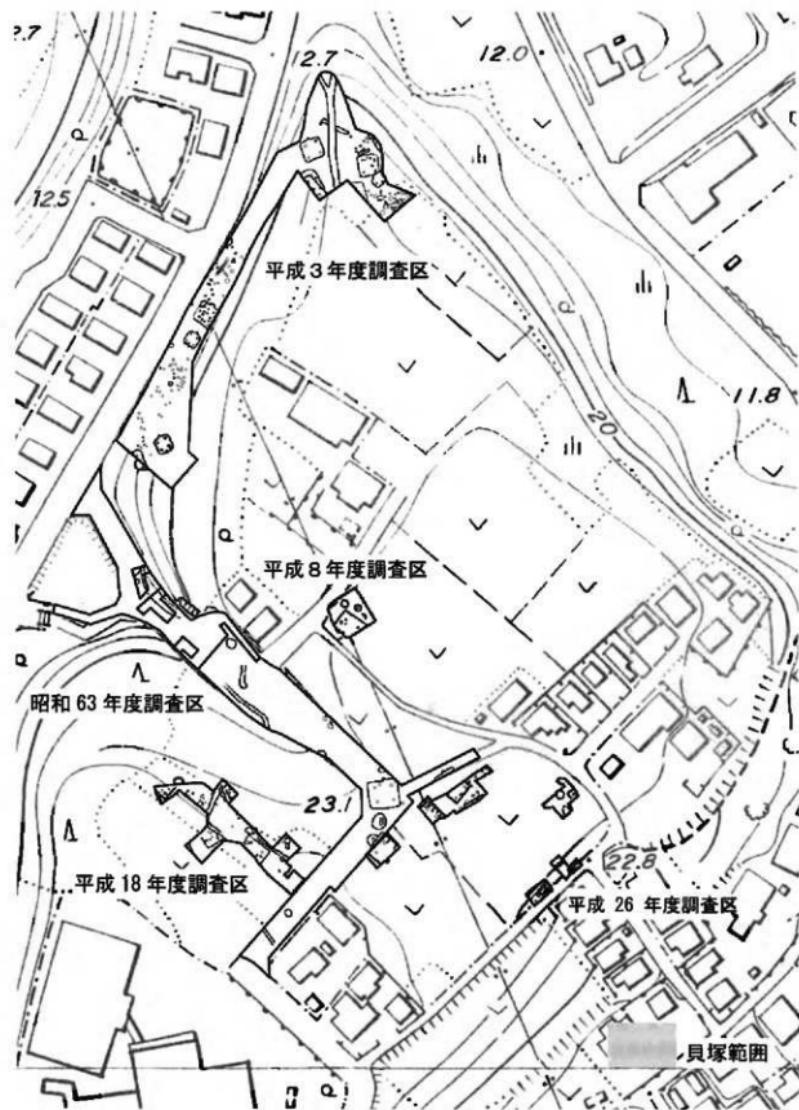
本遺跡は、過去に幾度かの調査が行われ（第2図）、昨年度（平成26年度）に行われた調査では、縄文時代中期中葉～後葉の土坑が検出され、1基の土坑内からはイボキサゴ・ハマグリを中心とした貝層が検出されている。また、調査区内からは多くの縄文土器が出土し、その時期は縄文時代中期中葉～後葉に主体があり、この時期に貝層の形成が活発であったことが判明している。また、過去の調査と同様に、古墳時代後期の住居跡や中世のテラス状造構及びビット群が検出されている（小林・西野2015）。

今回報告するのは、平成8年度に行われた調査である。この調査は平成9年3月3日から3月26日まで、送電鉄塔建設に伴うものとして行われた。貝塚の本体からやや西側に調査区は位置しており、調査面積は

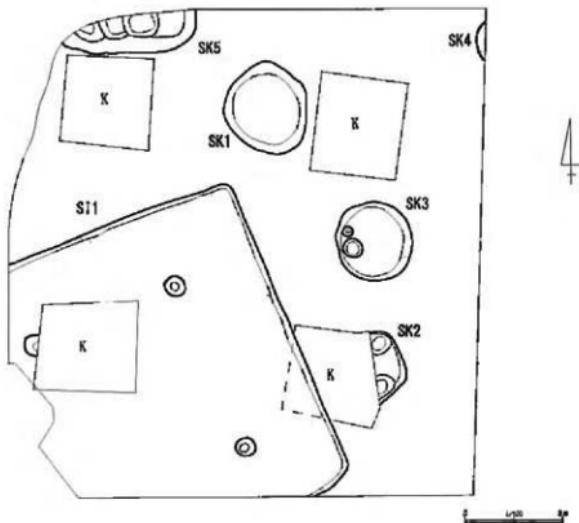


1:へたの台貝塚 2:月ノ木貝塚 3:作山古墳群 4:取林遺跡 5:道免遺跡 6:西屋敷遺跡 7:城の腰遺跡 8:高崎台遺跡 9:星久喜遺跡 10:荒久遺跡 11:大宮戸遺跡 12:東五郎遺跡

第1図 へたの台貝塚の位置と周辺遺跡 (S=1/25000)



第2図 へたの台貝塚の過去の調査範囲 (S=1/1250)



第3図 遺構配置図 (S=1/100)

88 m<sup>2</sup>である（第3図）。これまでその概要是1998年に刊行された『千葉県埋蔵文化財発掘調査抄報－平成8年度－』（千葉県教育庁生涯学習部文化課 1998）に簡単な概要が記されたのみであり、報告はされていなかった。しかし、大変興味深い調査成果が得られているので、本稿ではその成果の一部を報告したい。

## 2 検出された遺構・遺物

### 縄文時代

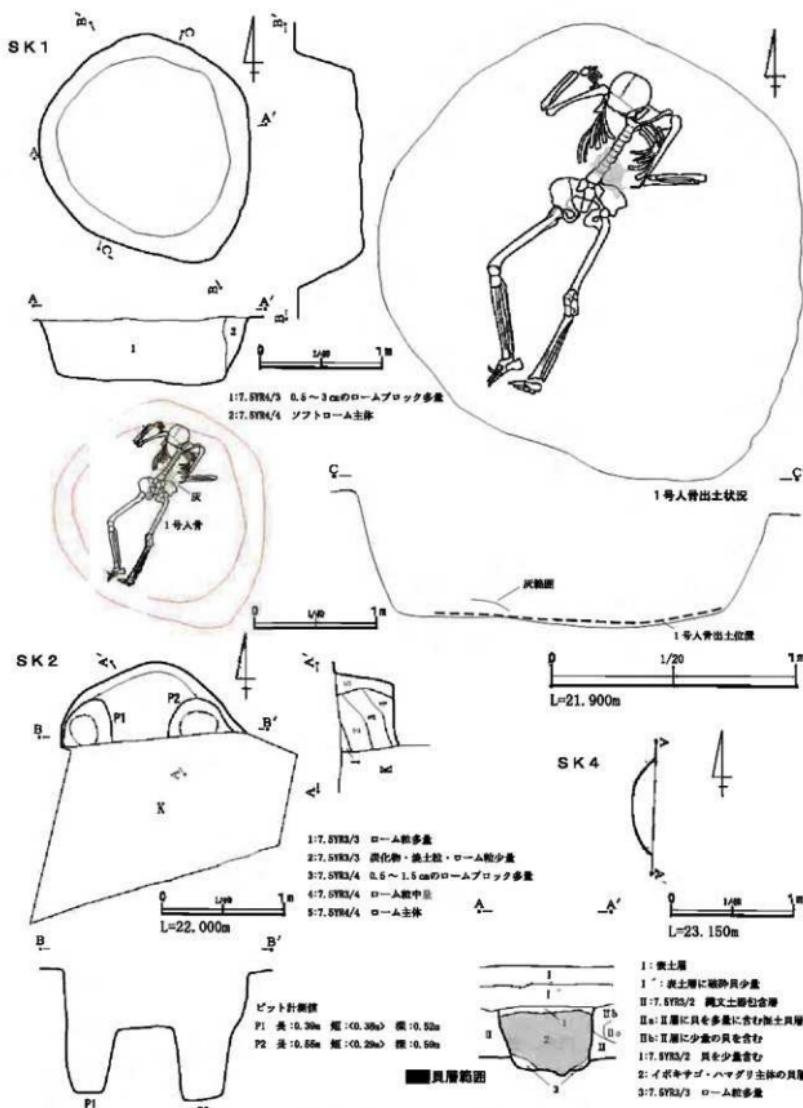
#### (1) 概要

遺構は、縄文時代中期中葉～後葉と考えられる土坑が2基、縄文時代中期の土坑3基が検出された。遺物の総計は集計表（第8表）に記載した。なお、第1・3号土坑から検出された人骨（1～3号人骨）及び、第3号土坑から検出された剥片類の詳細については、再度機会を設け報告したい。

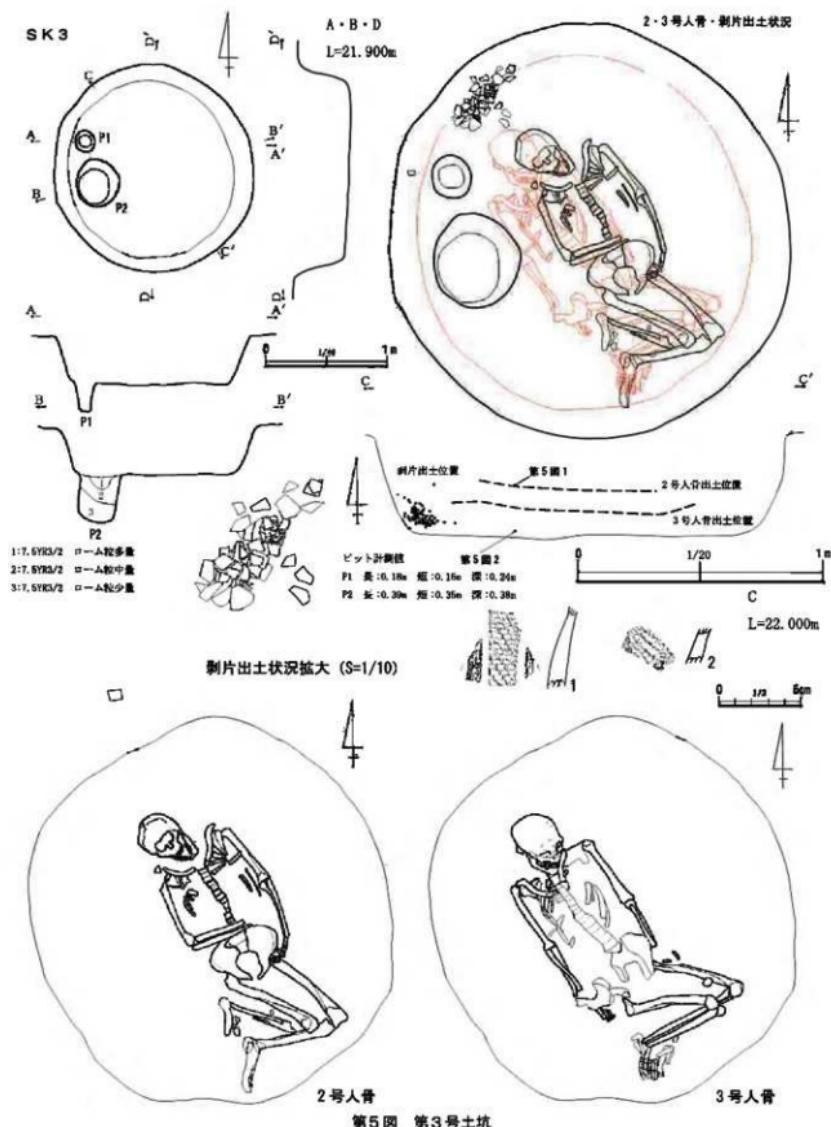
#### (2) 土坑

##### 第1号土坑（SK1・第4図）

重複関係：なし。平面形態：円形。規模：1.9m、深さ0.53m。構造：底面は平坦で、壁は緩やかに立ち上がる。床面直上から仰臥の人骨が1体（1号人骨）検出され、人骨の腹部上からは灰が検出されている。遺物：なし。時期：平面形態から縄文時代中期。



第4図 第1・2・4号土坑



第5図 第3号土坑

### 第2号土坑（SK2・第4図）

重複関係：なし。一部が擾乱により削平される。平面形態：円形と考えられる。規模： $<1.49m$ 、深さ0.44m。構造：底面は平坦で、壁は垂直気味に立ち上がる。底面壁際から大きなビットが2基検出された。遺物：なし。時期：平面形態から縄文時代中期。

### 第3号土坑（SK3・第1表・第5図）

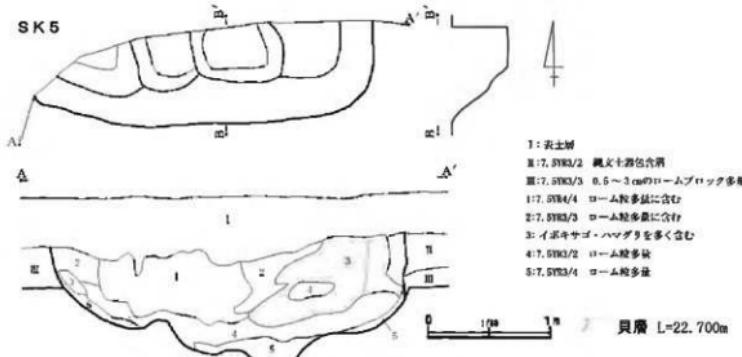
重複関係：なし。平面形態：円形。規模：1.7m、深さ0.4m。構造：底面は平坦で、壁は緩やかに立ち上がる。底面からビットが2基検出された。仰臥の人骨が2体（2・3号人骨）検出された。3号人骨は床面から10cm程の高さで検出され、2号人骨は3号人骨とほぼ同じ姿勢で、2号人骨に重ねられた状態で検出されている。遺物：チャートの剥片が75点、2・3号人骨の頭部に近い位置からまとまって出土している。床面からはやや浮き、上面から流れ込んだような出土状態を示す。遺物：加曾利E II式期と考えられる資料が2点出土し、いずれも細片である。出土遺物から加曾利E II式期。

### 第4号土坑（SK4・第4図）

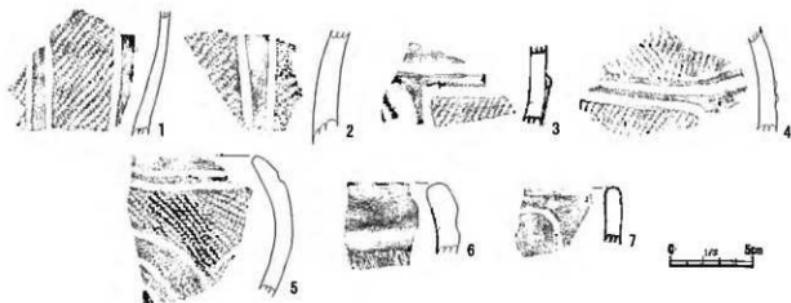
重複関係：なし。一部調査区外。平面形態：円形と考えられる。規模： $<0.78m$ 、深さ0.64m。構造：底面は平坦で、壁は垂直気味に立ち上がる。イボキサゴ・ハマグリ主体の貝層が検出された。遺物：なし。時期：平面形態から縄文時代中期。

### 第5号土坑（SK5・第1・2表・第6・7図）

重複関係：なし。一部調査区外。平面形態：不整円形と考えられる。規模： $<2.8m$ 、深さ1.1m。構造：底面は凹凸があり、壁は垂直気味に立ち上がる。イボキサゴ・ハマグリ主体の貝層が検出された。調査所見によれば、縄文時代の土坑が風倒木により崩れたものとされる。遺物：加曾利E II～III式期の土器片が37点出土している。時期：出土遺物から加曾利E II～III式期。



第6図 第5号土坑

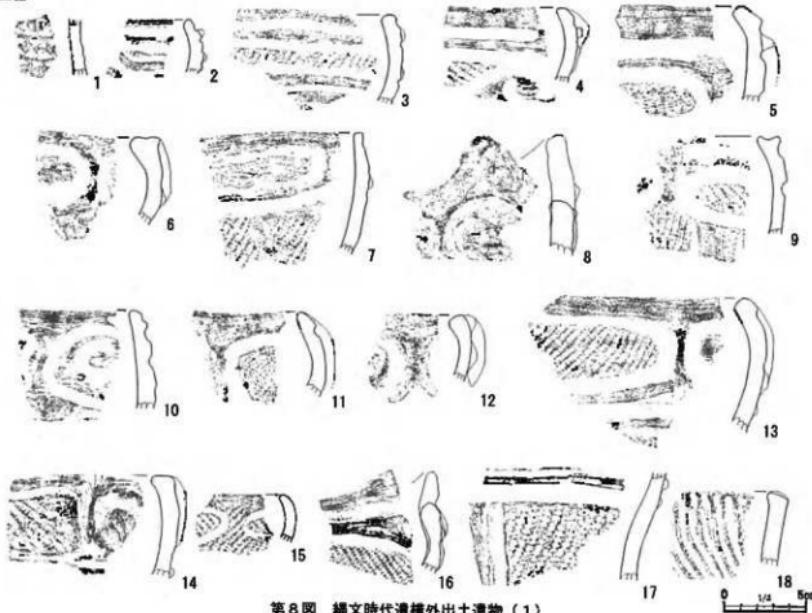


第7図 第5号土坑出土遺物

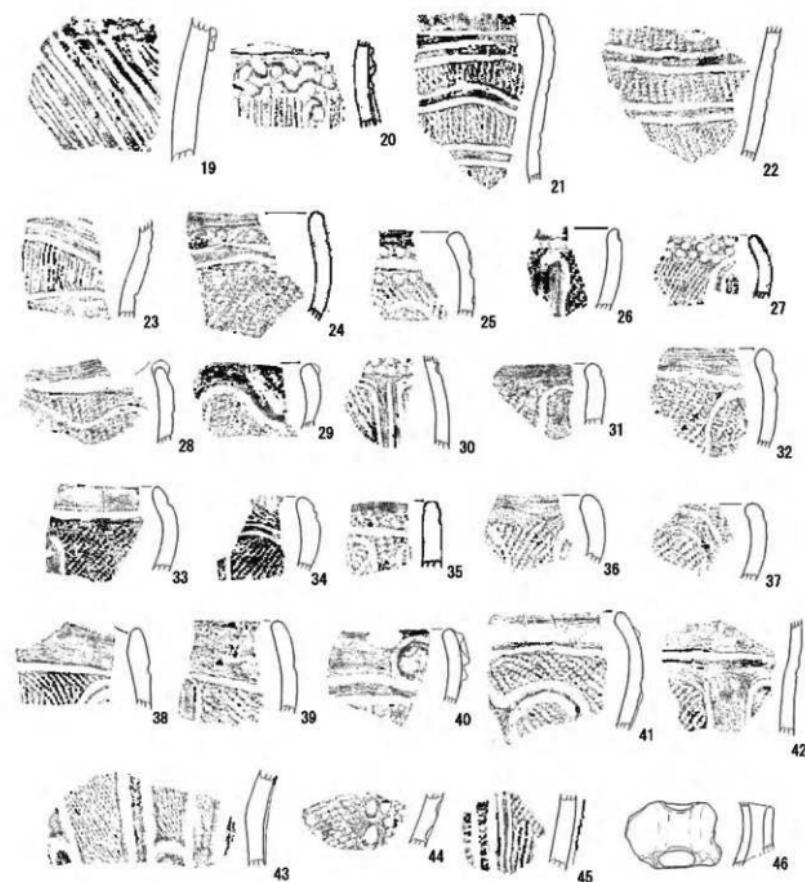
(3) 遺構外出土遺物 (第8~10図、第2~4表)

調査区内及び第1号堅穴住居跡の覆土から、縄文時代の遺物が出土している。これらの遺物はへたの台貝塚から流出したものと考えられる。総数は2581点で、土器以外にも土製品・石器・石製品・骨角器がある。時期が特定できる遺物は、加曾利 II式～III式が主体を占める。出土した遺物の総量は集計表に記載した(第8表)。また、イタボガキ製の貝輪未成品と思われるものが1点確認されている(写真図版5)。

土器



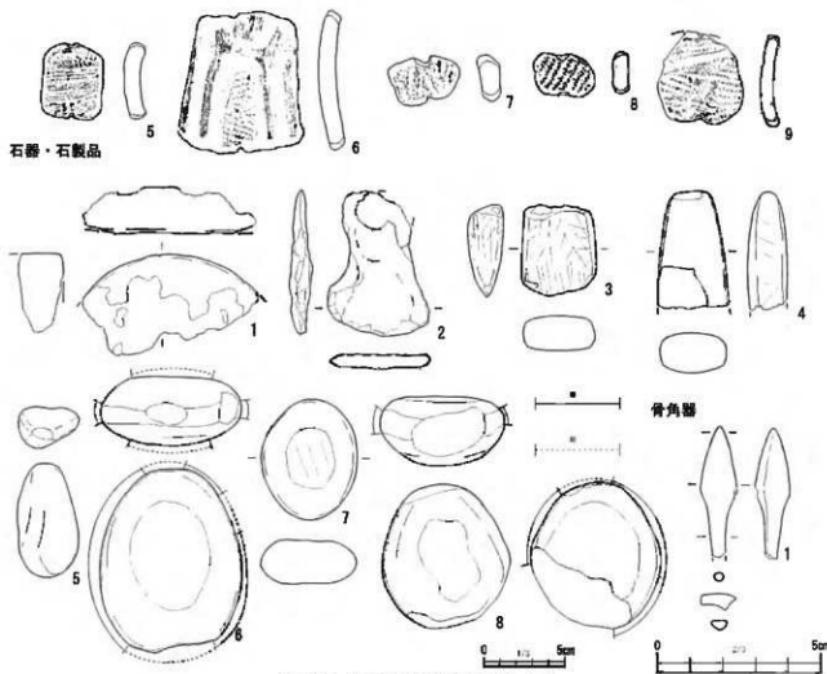
第8図 縄文時代遺構外出土遺物 (1)



土製品



第9図 繩文時代遺構外出土遺物（2）



第10図 縄文時代遺構外出土遺物(3)

第1表 縄文時代出土遺物観察表(1)

SK3

遺物番号	種類 器種	口径 底径 基底 基底	技法・その他	胎土	色調	焼成
1	縄文土器 深鉢	— (5.0)	胴部片。内面斜位のヘラミガキ。外面磨消繩文(原体複面RLR)を沈線で区画。加曾利Ⅱ式。	石英中量。	外面: 10TR3/1 内面: 10TR4/2	良好
2	縄文土器 深鉢	— (2.1)	胴部片。内面斜位のヘラミガキ。外面磨消繩文(原体複面RLR)を沈線で区画。	石英微量。	外面: 10TR3/1 内面: 10TR4/2	良好

SK5

遺物番号	種類 器種	口径 底径 基底 基底	技法・その他	胎土	色調	焼成
1	縄文土器 深鉢	— (7.7)	胴部片。内面ミガキ。外面磨消繩文(原体单面LR)を沈線で区画。加曾利Ⅱ式。	白色粒少量。	外面: 10TR4/1 内面: 7.SYR4/4	良好
2	縄文土器 深鉢	— (7.0)	胴部片。内面ミガキ。外面磨消繩文(原体单面LR)を沈線で区画。加曾利Ⅱ式。	白色粒・石英 少量。	外面: 10TR2/1 内面: SYR4/4	良好

第 2 表 繩文時代出土遺物觀察表（2）

3	縄文土器 鉢	— <4.8>	頭部片。内面横位のヘラミガキ。外面無範Rを施文後、沈線を沿わせた隆帯で文様を擲出。加曾利EII式。	石英・白色粒少量。	外面：10YR4/1 内面：10YR2/1	良好
4	縄文土器 鉢	— <6.4>	頭部片。内面横位のヘラミガキ。外面無範L-Rを施文後、沈線を沿わせた隆帯で文様を擲出。加曾利EII式。	白色粒少量。	外面：10YR4/1 内面：10YR2/1	良好
5	縄文土器 深鉢	— <8.5>	口縁部片。内面ミガキ。外面原体單範LRを施文後、沈線で文様を擲出。加曾利EII式。	白色粒・石英中量。	外面：10YR7/3 内面：10YR7/3	良好
6	縄文土器 鉢	— <4.2>	口縁部片。内面ミガキ。上部は沈線で区画し、下部は条縫を施す。加曾利EII～III式。	白色粒・石英少量。	外面：10YR6/3 内面：10YR6/3	良好
7	縄文土器 深鉢	— <3.4>	口縁部片。内面ヘラケズリ。外面は弧状の沈線を施す。中期。	石英・白色粒少量。	外面：7.SYR5/4 内面：7.SYR5/4	良好

遺物出土遺物

遺物番号	種類 器種	口径 底径 高さ	技法・その他	粘土	色調	焼成
1	縄文土器 深鉢	— <3.4>	頭部片。内面横位のヘラミガキ。外面は三角印刻文を施す。前期。	石英・白色粒少量。	外面：7.SYR5/3 内面：7.SYR5/3	良好
2	縄文土器 深鉢	— <3.3>	口縁部片。内面ミガキ。外面は隆帯を貼り付け文様を擲出。加曾利EII～III式。	石英・白色粒少量。	外面：10YR5/3 内面：7.SYR5/4	良好
3	縄文土器 深鉢	— <5.6>	口縁部片。内面ヘラケズリ。外面原体單範LRを施文後、沈線を沿わせた2条の隆帯で区画。加曾利EII～III式。	赤褐色粒・石英少量、白色粒中量。	外面：SYR4/4 内面：7.SYR5/4	良好
4	縄文土器 深鉢	— <4.5>	口縁部片。内面横位のヘラミガキ。外面原体單範LRを施文し、隆帯及び沈線で文様を擲出。加曾利EII～III式。	石英・赤褐色少量。	外面：10YR6/4 内面：10YR5/2	良好
5	縄文土器 深鉢	— <5.8>	口縁部片。内面横位のヘラミガキ。外面原体單範LRを施文し、沈線を沿わせた隆帯で焼文を擲出。加曾利EII～III式。	石英微量、白色粒中量。	外面：SYR4/3 内面：2.SYR4/4	良好
6	縄文土器 深鉢	— <5.3>	口縁部片。内面横位のヘラミガキ。外面は隆帯で焼文を擲出。加曾利EII～III式。	石英・白色粒中量。	外面：10YR2/1 内面：10YR4/2	良好
7	縄文土器 深鉢	— <7.5>	口縁部片。内面ヘラケズリの後ミガキ。外面は隆帯で焼文を擲出し、下部は原体單範LRを施文。焼文内にはヘラケズリ。縄文は一部アザ付している。加曾利EII～III式。	石英・褐色微量、白色粒中量。	外面：10YR4/1 内面：10YR5/2	良好
8	縄文土器 深鉢	— <7.3>	口縁部片。内面ヘラケズリ。外面は焼帯で焼文を擲出し、原体單範LRが焼文内に一部確認される。波状口縁。加曾利EII～III式。	石英・白色粒中量。	外面：10YR4/2 内面：10YR5/2	良好
9	縄文土器 深鉢	— <6.0>	口縁部片。内面ミガキ。口唇部に1条の沈線。外面は沈線を沿わせた隆帯で焼文を擲出。焼文内には原体單範LRが施文される。下部には原体單範LRが焼文されている。加曾利EII～III式。	石英微量、白色粒中量。	外面：10YR5/3 内面：10YR5/4	良好
10	縄文土器 深鉢	— <6.0>	口縁部片。内面横位のヘラミガキ。外面は沈線で焼文を擲出。部分的に原体單範LRが残る。加曾利EII～III式。	石英中量。	外面：10YR2/1 内面：10YR5/2	良好
11	縄文土器 深鉢	— <5.1>	口縁部片。内面ミガキ。外面は沈線を沿わせた隆帯で焼文を擲出。焼文内には原体單範LRが施文される。加曾利EII～III式。	石英・白色粒微量。	外面：10YR3/1 内面：7.SYR5/4	良好
12	縄文土器 深鉢	— <4.3>	口縁部片。内面横位のヘラミガキ。外面は沈線と隆帯で焼文を擲出する。加曾利EII～III式。	白色粒・赤褐色微量。	外面：10YR3/1 内面：10YR4/1	良好
13	縄文土器 深鉢	— <6.2>	口縁部片。内面ミガキ。外面は沈線を沿わせた隆帯で焼文を擲出。焼文内には原体單範LRが施文される。下部にも原体單範LRが焼文される。加曾利EII～III式。	石英少量、白色粒中量。	外面：10YR5/2 内面：10YR5/2	良好
14	縄文土器 深鉢	— <6.2>	口縁部片。内面ヘラケズリ。外面は隆帯で焼文を擲出し、焼文内には原体單範LRが施文される。加曾利EII～III式。	褐色微量、白色粒多量。	外面：10YR5/3 内面：10YR5/3	良好
15	縄文土器 深鉢	— <2.9>	口縁部片。内面ミガキ。外面は原体單範LRを施文後、沈線で焼文を施す。焼文内には原体單範LR。加曾利EII～III式。	石英・白色粒少量。	外面：10YR6/4 内面：10YR6/4	良好
16	縄文土器 深鉢	— <6.1>	口縁部片。内面横位のヘラミガキ。外面は沈線を沿わせた隆帯で文様を擲出する。下部は原体單範LRが施文される。波状口縁。加曾利EII～III式。	石英微量、白色粒中量。	外面：10YR5/2 内面：10YR4/1	良好

第3表 織文時代出土遺物観察表(3)

17 織文土器 深鉢	- (6.6)	胴部片。内面斜位のヘラミガキ。外面麻削溝文(原体單節RL)を斜線で区画。加曾利EⅡ式。	白色粒中量。	外面: 10YR4/1 内面: 10YR5/2	良好
18 織文土器 深鉢	- (4.6)	口縁部片。内面ヘラケズリ。外縁は斜位の沈縁で文様を抽出。曾利式系。	白色粒微量。	外側: 5YR4/3 内面: 5YR4/3	良好
19 織文土器 深鉢	- (8.7)	胴部片。内面ミガキ。外縁は斜位の沈縁が施され、上部は陰帯を貼り付け。刺突を施す。曾利式系。	白色粒多量。	外面: 10YR3/2 内面: 10YR6/2	良好
20 織文土器 深鉢	- (5.3)	胴部片。内面斜位のヘラミガキ。沈縁を絞りに施し、陰帯を貼り付け、交叉刺突を施す。波状の陰帯を垂下させる。曾利式系。	白色粒微量。	外面: 7.5YR6/4 内面: 7.5YR6/4	良好
21 織文土器 深鉢	- (10.2)	口縁部片。内面ヘラケズリ。外面は撚糸文(R)を施文後、直線・波状の沈縁で磨り消す。連弧文系。	白色粒中量。	外面: 10YR6/2 内面: 10YR5/2	良好
22 織文土器 深鉢	- (8.2)	胴部片。内面斜位のヘラミガキ。外面は原体單節RLを施文後、沈縁で磨り消す。連弧文系。	白色粒・赤褐色少量、石英中量。	外面: 7.5YR3/3 内面: 10YR5/3	良好
23 織文土器 深鉢	- (5.9)	胴部片。内面ミガキ。外面は撚糸文(L)を施文後、波状の沈縁で磨り消す。連弧文系。	石英・白色粒少量。	外面: 7.5YR4/3 内面: 7.5YR4/3	良好
24 織文土器 深鉢	- (6.5)	口縁部片。内面ミガキ。外面は原体單節RLを施文後、沈縁で磨り消す。連弧文系。	穂・白色粒中量、石英多量。	外面: 7.5YR3/1 内面: 7.5YR4/1	良好
25 織文土器 深鉢	- (5.2)	口縁部片。内面ミガキ。外面は原体單節RLを施文後、2列の刺突の間に沈縁を施し、下部には弧状の沈縁が確認される。連弧文系。	穂中量。	外面: 10YR5/2 内面: 10YR5/2	良好
26 織文土器 深鉢	- (4.9)	口縁部片。内面ヘラミガキ。外面は原体單節RLを施文後、弧状の沈縁で磨り消す。口唇部には刺突が施される。波状口縁。連弧文系。	石英・白色粒微量。	外面: 10YR6/2 内面: 10YR4/1	良好
27 織文土器 深鉢	- (3.8)	口縁部片。内面ミガキ。外面は原体單節RLを施文後、弧状の沈縁で磨り消す。口唇部には2列の刺突が施される。連弧文系。	白色粒・穂・石英少量。	外面: 5YR4/4 内面: 5YR4/4	良好
28 織文土器 深鉢	- (5.1)	口縁部片。内面ミガキ。外面は原体單節RLを施文後、波状の沈縁で磨り消す。波状口縁。連弧文系。	石英・白色粒少量。	外面: 10YR3/2 内面: 10YR5/3	良好
29 織文土器 深鉢	- (3.9)	口縁部片。内面ヘラケズリ。外面は原体單節RLを施文後、波状の陰帯を貼り付ける。連弧文系。	石英・穂微量、白色粒中量。	外面: 7.5YR5/3 内面: 10YR5/2	良好
30 織文土器 深鉢	- (5.6)	胴部片。内面斜位のヘラミガキ。外面は原体無節RLを施文後、弧状の沈縁で磨り消す。上部には2列の刺突が施される。連弧文系。	白色粒少量、石英中量。	外面: 10YR3/1 内面: 10YR3/1	良好
31 織文土器 深鉢	- (3.6)	口縁部片。内面ヘラケズリ。外面は原体單節RLを施文後、弧状の沈縁で磨り消す。加曾利EⅢ式。	石英微量、白色粒中量。	外面: 10YR3/2 内面: 5YR4/4	良好
32 織文土器 深鉢	- (6.0)	口縁部片。内面斜位のヘラミガキ。外縁上部は沈縁で区画し、下部は原体單節RLを施文後、弧状の沈縁が施される。加曾利EⅢ式。	石英中量。	外面: 10YR3/1 内面: 10YR3/1	良好
33 織文土器 深鉢	- (5.1)	口縁部片。内面斜位のヘラミガキ。外面は上部を沈縁で区画し、下部は原体單節RL・RLを施文後、弧状の沈縁を施す。加曾利EⅢ式。	石英・穂少量、白色粒多量。	外面: 7.5YR5/3 内面: 5YR4/4	良好
34 織文土器 深鉢	- (4.4)	口縁部片。内面斜位のヘラミガキ。原体單節RL・RLを施文後、弧状の沈縁で磨り消す。加曾利EⅢ式。	白色粒・赤褐色少量。	外面: 7.5YR5/2 内面: 7.5YR3/1	良好
35 織文土器 深鉢	- (4.0)	口縁部片。内面ヘラケズリ。外面は上部を沈縁で区画し、原体單節RL・RLを施文後、弧状の沈縁を施す。加曾利EⅢ式。	白色粒少量、石英中量。	外面: 7.5YR4/2 内面: 7.5YR5/4	良好
36 織文土器 深鉢	- (4.0)	口縁部片。内面ミガキ。外面は原体單節RLを施文後、弧状の沈縁を施す。加曾利EⅢ式。	穂微量、石英中量、白色粒多量。	外面: 10YR3/2 内面: 7.5YR5/4	良好
37 織文土器 深鉢	- (4.6)	口縁部片。内面ヘラケズリ。外面は原体單節RLを施文後、弧状の沈縁で磨り消す。加曾利EⅢ式。	穂・赤褐色微量、白色粒中量。	外面: 5YR4/4 内面: 5YR4/4	良好
38 織文土器 深鉢	- (4.9)	口縁部片。内面斜位のヘラミガキ。外面は上部を沈縁で区画し、原体無節RLを施文後、弧状の沈縁で磨り消す。波状口縁。加曾利EⅢ式。	石英微量、白色粒少量。	外面: 10YR5/2 内面: 10YR5/2	良好
39 織文土器 深鉢	- (6.6)	口縁部片。内面斜位のヘラミガキ。外面は上部を沈縁で区画し、無節RLを施文後、弧状の沈縁で磨り消す。加曾利EⅢ式。	白色粒少量。	外面: 10YR3/2 内面: 10YR5/2	良好

第4表 繩文時代出土遺物類聚表(4)

40	縄文土器 深鉢	- <4.5>	口縁部。内面横位のヘラミガキ。外面上部は後縁で渦巻文を指出し、沈縫をねわせた模様の陰溝を施す。下部は唐溝縄文(原体单筋LH)を沈縫で区画。加曾利E式。	白色粒少量、 石英中量。	外面：10YR3/1 内面：10YR6/3	良好
41	縄文土器 深鉢	- <7.1>	口縁部。内面ミガキ。外唇は原体單筋LHを施文後、沈縫をねわせた陰溝で文様を抽出する。加曾利E式。	白色粒少量、 石英中量。	外面：10YR5/2 内面：10YR5/2	良好
42	縄文土器 深鉢	- <7.0>	胴部片。内面斜位のヘラミガキ。外面は上部を沈縫で区画し、下部は唐溝縄文(原体单筋LH)を沈縫で区画。加曾利E式。	石英・白色粒 少量。	外面：10YR4/1 内面：10YR3/1	良好
43	縄文土器 深鉢	- <5.9>	胴部片。内面斜位のヘラミガキ。外面は燃赤文(Ⅲ)を垂り消し文様を抽出。中期。	白色粒中量。	外面：5YR3/3 内面：5YR4/2	良好
44	縄文土器 深鉢	- <3.3>	胴部片。内面アラケズリ。外面は原体單筋LHを施文後、棒状工具による刺突が施される。中期。	石英・白色粒少 量。	外面：7.5YR5/4 内面：5YR5/4	良好
45	縄文土器 深鉢	- <4.7>	胴部片。内面ミガキ。外面は原体無筋飾を施文後、沈縫を3条沿わせた陰溝を付ける。後縁上部は刻みが施される。中期。	石英少量、白 色粒中量。	外面：7.5YR4/2 内面：7.5YR5/2	良好
46	縄文土器 鉢	- <3.9>	把手片。内外面共にナデ。外面に一部赤彩が残る。中期。	石英・礫中 量。	外面：10YR6/3 内面：10YR6/3	良好
土製品						
1	土製品 舞台	- (17.4) (4.8)	底部片。内外面共にミガキ。孔が1つ確認される。下端部は擦れてい る。	石英・白色粒 少量、礫中 量。	外面：7.5YR5/4 内面：7.5YR5/4	良好
2	土製品 土器片	完形。長さ5.1cm・幅4.6cm・厚さ0.9cm・重量28.9g。			10YR4/1	良好
3	土製品 土器片	完形。長さ5.4cm・幅4.6cm・厚さ1.1cm・重量41.1g。			10YR6/4	良好
4	土製品 土器片	完形。長さ6.4cm・幅5.7cm・厚さ1.1cm・重量57.9g。			10YR2/1	良好
5	土製品 土器片	完形。長さ4.6cm・幅3.9cm・厚さ1.0cm・重量26.5g。			10YR4/2	良好
6	土製品 土器片	完形。長さ8.6cm・幅7.8cm・厚さ1.1cm・重量120.4g。			7.5YR5/4	良好
7	土製品 土器片	完形。長さ2.9cm・幅4.5cm・厚さ1.4cm・重量17.1g。			10YR4/1	良好
8	土製品 土器片	完形。長さ2.7cm・幅3.7cm・厚さ0.9cm・重量13.0g。			10YR3/1	良好
9	土製品 土器片	一部欠損。長さ5.6cm・幅5.2cm・厚さ0.8cm・重量34.5g。			10YR5/3	良好
石製品・石器						
1	石製品 石器片	下端片。長さ(6.3cm)・幅(10.8cm)・厚さ(2.8cm)・重量149.8g。比較的平広に磨削した面が確認される。自立するタイプの大柄な石器の下端部分と考えられる。				
2	石器 打製石斧	刀鋸一頭大柄。長さ(9.0cm)・幅(6.3cm)・厚さ(0.9cm)・重量65.9g。片理を持つごく薄い石材の両面を打ち欠いて成形される。分離形。				
3	石器 磨製石斧	刀鋸片。長さ(5.5cm)・幅(4.6cm)・厚さ(2.1cm)・重量95.7g。刀鋸側を磨石面・砥石に転用。両面及び左側縁にかけて多方 向の擦り跡が確認される。右側縁は敲打と研磨により磨耗が顕著。坂面の一部も磨滅する。定角式。				
4	石器 磨製石斧	基部破片。長さ(7.1cm)・幅(4.4cm)・厚さ(2.4cm)・重量135.5g。右側縁にのみ僅かな擦り状態。定角式。				
5	石器 磨石盤	完形。長さ7.0cm・幅3.8cm・厚さ2.5cm・重量85.5g。不整形の尖った轍の先端に敲打痕が確認される。				
6	石器 磨石盤	一部欠損。長さ(11.2cm)・幅(6.6cm)・厚さ(4.3cm)・重量554.5g。椎円形轍の両面に広い敲打・または研磨面。周縁の一部に研磨面、一部に敲打面。				
7	石器 磨石盤	完形。長さ(7.3cm)・幅(6.8cm)・厚さ(2.7cm)・重量165.7g。椎円形轍の両面に広い研磨面。線状底あり。全体の一郎が赤色化 し、底から磨け面に転用されたと考えられる。				
8	石器 磨石盤	一部欠損。長さ(8.9cm)・幅(6.0cm)・厚さ(4.4cm)・重量399.6g。椎円形轍の両面に広い研磨。中央の丸みが強い面には狭い 敲打面、平坦な面には広い敲打面が確認される。				
骨角器						
1	骨角器 骨器	基部欠損。長さ(3.9cm)・幅(1.1cm)・厚さ(0.5cm)・重量1.1g。中型歯の因縫骨を用いる。骨片の形状と内面剥離口の複数を考 えし作られている。先端は丸く加工されている。				

## 弥生時代

## (1) 概要

遺構は検出されていないが、遺物が1点出土している。



第11図 弥生時代遺構外出土遺物

第5表 弥生時代出土遺物種別表

遺物番号	種類 器種	口径 底径 高さ	技法・その他	胎土	色調	施成
1	弥生土器 鉢	- G3.0	口縁部片。内面横位のヘラミガキ。外面は付加条1種幾文(LR)を施文し、古風的な文様で施り青す。弥生時代中期前～中葉。	石英少量、白	外面: 10YR4/1 内面: 10YR7/2	良好

## (2) 遺構外出土遺物（第11図・第5表）

調査区内から弥生時代中期前～中葉と考えられる土器片が1点出土している。

### 古墳時代

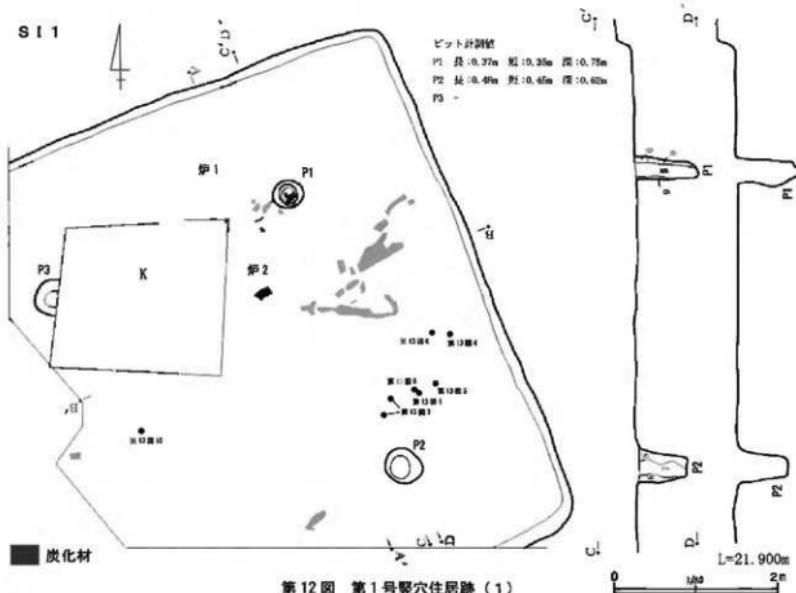
#### (1) 概要

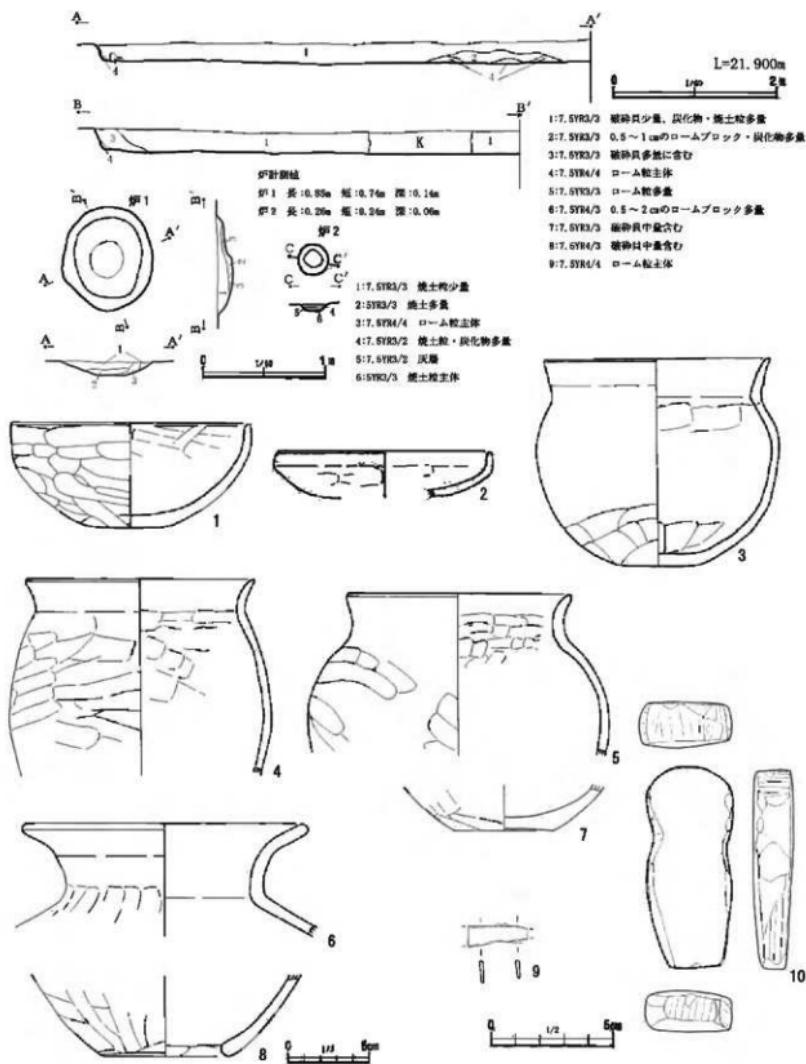
遺構は、古墳時代中期と考えられる堅穴住居跡が1軒検出された。遺物の総計は集計表（第8表）に記載した。

#### (2) 堅穴住居跡

##### 第1号堅穴住居跡（S I 1・第6表・第12・13図）

重複関係：なし。一部調査区外。平面形態：方形。規模：長軸 6.58m、短軸 5.58m、深さ 0.98m。主軸：



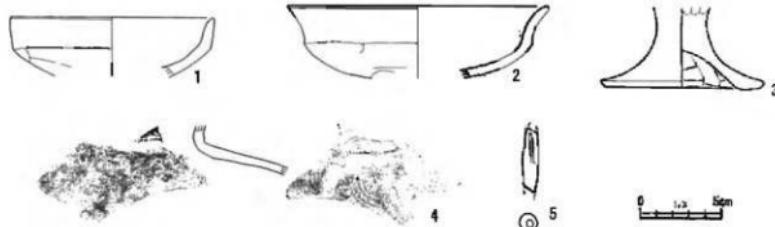


第13図 第1号竪穴住居跡（2）

N-23° -W。構造：底面は平坦で、壁は緩やかに立ち上がる。周溝は検出されていない。ピットは3基検出され、炉が2基検出された。床面からは炭化材が検出されている。遺物：床面付近からまとまって古墳時代中期の遺物が出土している。時期：出土遺物から古墳時代中期（TK208～23型式期併行）。

（3）遺構外出土遺物（第14図・第6・7表）

調査区内から、古墳時代の遺物が出土している。今回報告した堅穴住居跡は古墳時代中期だが、遺構外からは古墳時代中期～後期にかけての遺物が出土している。遺物の総計は集計表（第8表）に記載した。



第14図 古墳時代遺構外出土遺物

第6表 S I I 1・古墳時代遺構外出土遺物観察表

遺物番号	種類 器種	口径 底径 器高	技法・その他	粘土	色調	焼成
1	土師器 杯	14.8 5.0 6.4	ほぼ丸形、内外面共にヘラケズリ後ナデ、内外面共に赤色。	礫少量、白色 粒中量。	外面：7.STR5/4 内面：S1R3/3	良好
2	土師器 杯	(13.0) - (2.7)	口縁～体部片。内面ヘラケズリ後ナデ、口縁部内外面共にヨコナダ。外表面ヘラケズリ後ナデ。内外面共に赤色。	礫微量、白色 粒中量。	外面：S1R4/6 内面：S1R4/6	良好
3	土師器 杯	(13.8) 5.0 12.5	3/4残存。内面ヘラナダ及びナデ。口縁部内外面共にヨコナダ。外表面ヘラケズリ後ナデ。輪積み底が残る。	礫少量、白色 粒少量。	外面：7.STR6/4 内面：7.STR6/4	良好
4	土師器 甕	(14.0) (2.0)	口縁～胴部1/2残存。内面ヘラナダ及びナデ。口縁部内外面共にヨコナダ。外表面ヘラケズリ後ミガキ。輪積み底が残る。	白色粒少量。	外面：7.SYR3/1 内面：7.SYR3/1	良好
5	土師器 甕	13.8 - (9.7)	口縁～胴部1/4残存。内面ナデ。底部内面ヘラナダ。口縁部内外面共にヨコナダ。外表面ヘラケズリ後ミガキ。	石英少量、白 色粒中量。	外面：10R2/1 内面：10R4/1	良好
6	土師器 甕	(17.0) - (6.3)	口縁～胴部1/2残存。内面ナデ。口縁部内外面共にヨコナダ。外表面ヘラケズリ後ナデ。	礫少量、白色 粒・石英中量。	外面：7.STR5/4 内面：S1R4/6	良好
7	土師器 甕	8.2 (2.6)	底部1/2残存。内面ナデ。外表面ヘラケズリ後ナデ。	礫・白色粒中量。	外面：S1R5/4 内面：S1R4/4	良好
8	土師器 甕	(7.6) (5.0)	底部1/3残存。内外面共にヘラケズリ後ナデ。下端部はヘラケズリ。	礫・白色粒中量。	外面：10R5/2 内面：10R6/3	良好
9	鉢製品 刀子？	破片、長さ<2.4cm>、幅0.9cm、厚さ0.2cm、重量1.5g。下側は緩やかに屈曲する。断面は平坦である。				
10	石製品 不明	完形。長さ8.3cm、幅3.6cm、厚さ1.9cm、重量109.1g。刃部を持たない斧状の石器。刃の上部は丸く、下面と両側面は平面でいずれも剥落痕が明瞭である。両側縁に敲打による複数の抉りが確認される。全体に汚れ、光沢があり、下部の出っ張った部分には朱が顔面に付いている。下側と敲打部は汚れや焼が確認されない。				

古墳時代遺構外出土遺物

1	土師器 杯	(12.4) (3.8)	口縁～体部片。内面ミガキ。口縁部内外面共にヨコナダ。外表面ヘラケズリ後ミガキ。内外面共に赤色。	白色粒少量。	外面：S1R4/3 内面：S1R4/3	良好
2	土師器 杯	(15.6) (4.4)	口縁～体部片。内面ヘラケズリ後ナデ。口縁部外面ヨコナダ。外表面ヘラケズリ。内外面共に赤色。	石英・白色粒 微量。	外面：2.SYR4/4 内面：2.SYR4/4	良好

第 7 表 古墳時代遺構外出土遺物観察表

			石灰少量、白 色粒・斑点。	外側 : 2 SYR4/4 内面 : 3YR4/3	良好
3	土師器 高杯	(9.4) (4.9)	脚部 1/2 存在。内面ヘラケズリ。外面ヘラケズリ後ナデ。外面赤跡。		
4	須恵器 甕	— (3.1)	肩部片。内面青海波をナデナデ。頸部内外共にロクロナデ。外面 ナデ。外面に自然縞が付着する。	精良。 外側 : 3Y3 2 内面 : X4	良好
5	土製品 管状土錐	一部欠損。長さ C3.9cm >、幅 1.0cm、厚さ 1.1cm、重量 3.4g。外面一部ナデ。		7.5YR6/4	良好

## 古代

### (1) 概要

遺構は確認されていないが、遺物が少量出土している。

### (2) 遺構外出土遺物

遺構外から古代の遺物が総計 4 点出土している。土師器・須恵器が出土し、いずれも細片である。

## 中・近世

### (1) 概要

遺構は確認されていないが、遺物が少量出土している。平成 26 年度の調査ではテラス状遺構やピット群が検出されており、周辺に中世の遺構が広がる可能性がある。

### (2) 遺構外出土遺物

遺構外から中・近世の遺物が総計 88 点出土している。陶磁器類が主体を占め、いずれも細片である。また、調査区内から和鏡（中世）が 1 点出土している。これについては機会を改めて詳細な報告を行いたい。

## 3まとめ

## 縄文時代

縄文時代の遺構は土坑が 5 基検出された。時期が特定できるものは 3 号土坑が加曾利 EII 式期、5 号土坑が加曾利 EII～III 式期に属すると考えられる。1 号土坑で 1 体、3 号土坑で 2 体、人骨が検出されている。特筆されるのは、2 体が仰臥の同じ姿勢で重ねられた状態で検出された 3 号土坑の例である。それに加えて、同土坑からはチャートの剥片が 75 点検出されている。縄文時代中期中葉でこのような事例はほぼ類例がなく、埋葬方法、石材の流通・利用方法などについての貴重な所見が得られた。人骨及び剥片の詳細な報告については今後改めて行いたい。また、遺構外出土土器も、過去の調査と同様加曾利 EII～III 式期に主体があり、へたの台貝塚形成の時期を知ることができる。

## 弥生時代

遺構は検出されていないが、弥生時代中期前～中葉の土器が 1 点出土している。その文様構成から東北南部の影響を受けたものと考えられる。当該期の遺跡・遺物は千葉県内を見渡しても少なく、当時の遺跡分布を知るうえで貴重な資料である。

## 古墳時代

古墳時代中期の竪穴住居跡が 1 軒検出されている。坪・甕の形態や組成から、住居の時期は小沢洋による編年の 5 期（TK208～23 式期・小沢 2008）と考えられる。過去の調査では古墳時代後期の集落跡が台地上に展開していることが判明していたが、今回、古墳時代中期の住居跡が検出され、都川流域における古墳時代中期の遺跡の広がりを知る資料を得ることができた。

## 古代

古代の遺構は検出されず、遺物もごく少量であるが、何らかの土地利用があった可能性がある。

## 中・近世

今回報告した調査では遺構は検出されなかつたが、過去の調査も含めれば、城郭関係施設があつた可能性が指摘されており（後藤 1971）、今回検出された遺物もそれらの遺構に関係する可能性が高い。また、調査区内からは完形の和鏡（中世）が1点出土している。これについては機会を改めて詳細な報告を行いたい。

（公益財団法人千葉市教育振興財團）

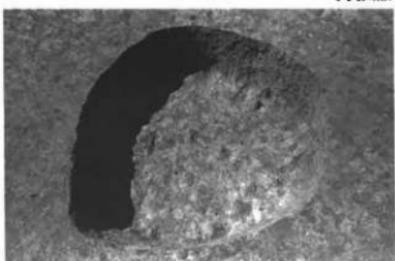
## 参考文献

- 大賀健ほか 2007『千葉市への台貝塚－平成18年度発掘調査－』有限会社友起創業・千葉市教育委員会  
小沢洋 2008『房総古墳文化の研究』六一書房  
湖口淳一・田中英世・古谷涉 2012『埋蔵文化財調査（市内遺跡）報告書－平成23年度－』千葉市教育委員会  
後藤和民 1971「千葉市仁戸名町 への台古墳群発掘調査概報」『貝塚博物館紀要』第4号 千葉市加曾利貝塚博物館  
小林嵩・西野雅人 2015『千葉市への台貝塚－宅地造成事業に伴う埋蔵文化財調査報告書－』公益財団法人千葉市教育振興財團 埋蔵文化財調査センター  
財団法人千葉市文化財調査協会 1993『財団法人千葉市文化財調査協会年報5－平成3年度－』  
白根義久 1993『埋蔵文化財調査（市内遺跡）報告書－平成4年度－』千葉市教育委員会  
田中英世 1990『千葉市への台貝塚』千葉市教育委員会  
千葉県教育庁生涯学習部文化課 1998『千葉県埋蔵文化財発掘調査沙報－平成8年度－』千葉県教育庁生涯学習部文化課  
寺門義範 1991『埋蔵文化財調査（市内遺跡）報告書－平成2年度－』千葉市教育委員会  
山下亮介 2007『埋蔵文化財調査（市内遺跡）報告書－平成18年度－』千葉市教育委員会

第8表 出土遺物集計表

遺構名		住居		土坑		調査区		総計	
埋存		個体	破片	個体	破片	個体	破片		
土器	陶文	南期	1			13		1	
		加魯利Ⅱ式			1	2		13	
		意匠文様文系(Ⅲ式)						3	
		透彌文系	24			1	18	43	
		曾利系	3				9	12	
		加魯利Ⅱ・Ⅲ式	75	1			109	185	
		意匠透彌文系(Ⅲ式)	1				2	3	
		横位透彌文系(Ⅲ式)	2			1	18	21	
		縹文のみ	344			8	429	781	
		沈縹のみ				2	172	174	
		無文	194			6	513	715	
		加魯利Ⅱ式	308				324	632	
		加魯利Ⅱ～Ⅲ式	無	2		1	8	11	
		中期	1			1	2	4	
石器・石製品	石器	石棒					1	1	
		打制石斧						1	
		磨制石斧	1				1	2	
		磨石・敲石	1				5	5	
		砾石	1					1	
		合石					1	1	
土製品	土器	馬蹄石	銅片				1	1	
		貢石	銅片					75	
		器台					1	1	
		土器片鍛	1			7		8	
骨角器	骨	骨織	1					1	
古墳中期	土器	壺	1	12				21	
		环頸		10				10	
		高壺		1			9	10	
		鉢	1					1	
		甕	1	127				128	
		瓶		1				1	
		鉄製品	刀子					1	
		石製品	不明	1				1	
		土製品	支脚	1				1	
中・後期	土器	壺					12	12	
		环頸					16	16	
		甕					259	259	
後期	土器	環身					9	9	
		环底		1				1	
		甕					1	1	
		壺					1	1	
古墳後期～古代	須恵器	壺					1	1	
		壺・須恵					4	4	
		甕					3	3	
		壺							
古代	土器	壺					2	2	
		酒・飴瓶					1	1	
		管状土器					1	1	
		壺							
中近世	陶磁器	壺					1	1	
		鉢類					2	2	
		常滑	甕				1	1	
		不明		81			2	83	
		側製品	和鏡			1		1	
不明	土器		4				2	6	
總計			13				25	38	
総計		7	1209	77		37	9	1976 3315	

写真図版1



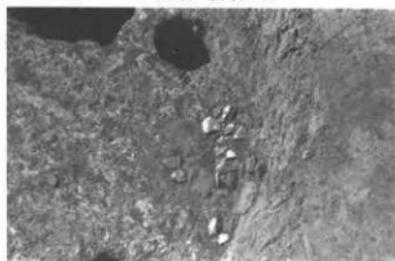
写真図版2



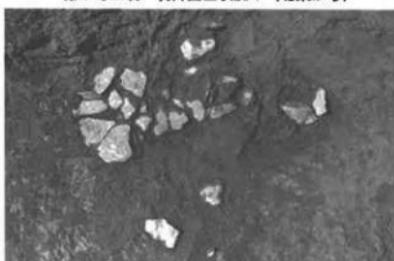
3号人骨（南東から）



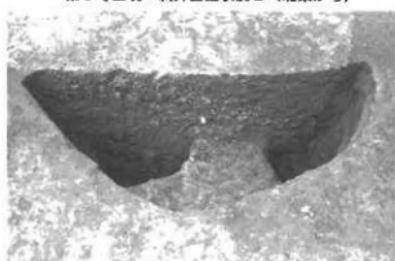
第3号土坑 剥片出土状況1（北東から）



第3号土坑 剥片出土状況2（北東から）



第3号土坑 剥片出土状況3（南東から）



第2号土坑（南から）



第4号土坑（西から）



第5号土坑（南から）



第1号竪穴住居跡（南東から）

写真図版3

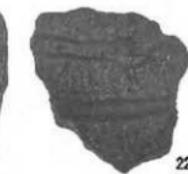
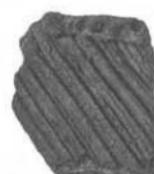
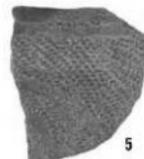
第3号土坑



第5号土坑

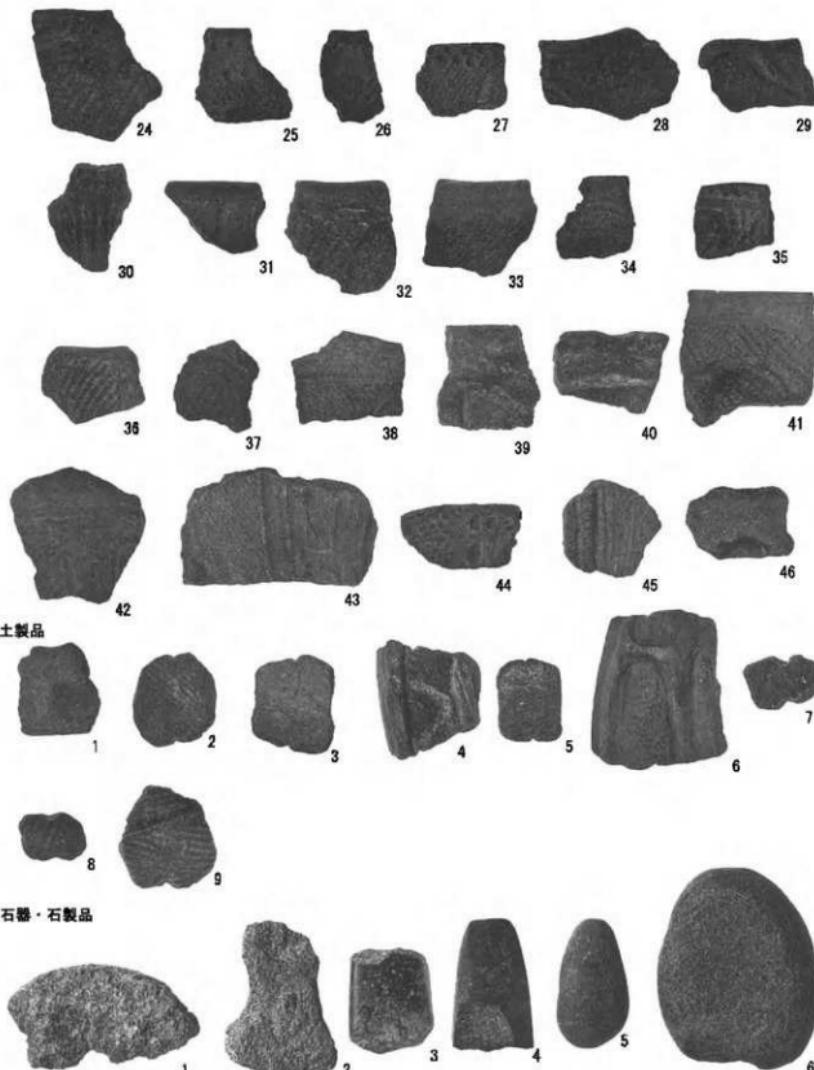


縄構外  
縄文土器



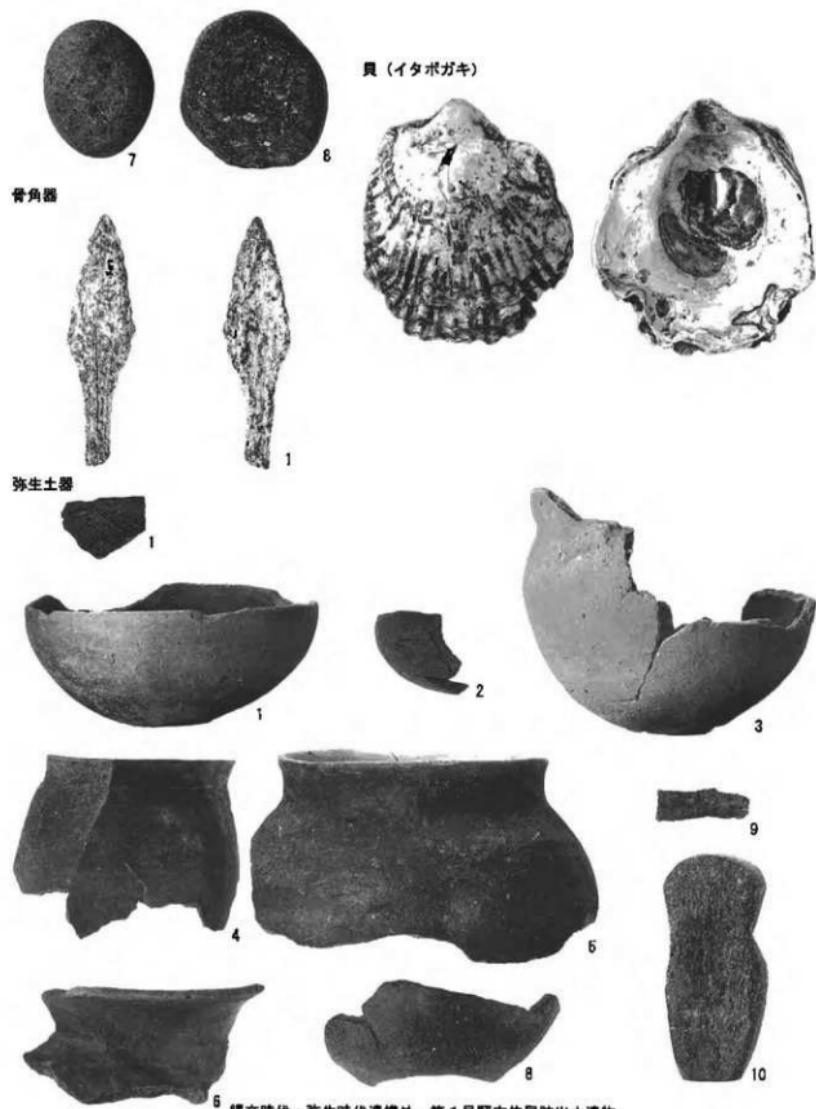
縄文時代出土物 (1)

写真図版4



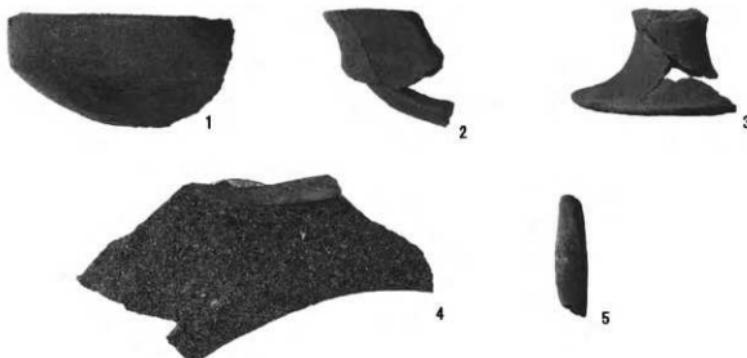
縄文時代出土遺物（2）

写真図版5



縄文時代・弥生時代遺構外・第1号竪穴住居跡出土遺物

写真図版 6



古墳時代遺構外出土遺物